

# 中国近現代出版文化史の一断面

——生活書店から三聯書店、そして再び生活書店へ——

楊 韜

生活書店は新知書店（一九三五年創業）と読書出版社（一九三六年創業）との三者協議で合併強化の方針を決定、一九四八年香港で完全に合併した。正式名称は生活・読書・新知三聯書店という。中華人民共和国の成立にともなって本社を北京に移転、上海に分店をもつ（香港には別に香港三聯書店がある）。従来の伝統を生かして社会科学・近現代史関係のテーマを中心に成熟した健実な編集出版で知られている。

——大山茂『大安社史』（1998）、92頁

## はじめに

1948年、中国共産党の指導の下、生活書店は読書出版社・新知書店と合併し、「生活・読書・新知三聯書店」となった。中華人民共和国建国以降、一時期人民出版社に吸収されたが再び独立した三聯書店は、徐々にそのブランドを作り上げることに成功した。生活書店から三聯書店への「変身」の過程は、近現代中国の出版ジャーナリズムの変容と連続性を反映したものと思われる。生活書店の関係者には、新中国成立後政府の言論や出版機関の要職を務めた者もいた。たとえば、胡愈之は、1949年以降中華人民共和国政務院出版総署署長を務めた。徐伯昕は出版総署発行局局长、新華書店總經理などの要職に就いた<sup>(1)</sup>。ほかにも、1930-1940年代に生活書店の各支店で働いた従業員の多くは建国後、言論やメディア政策にかかわる政府機関、及び活字出版物の発行流通にかかわる企業に就業した。彼らは1950年代以降の中国において言論政策の形成及び実施に大きな影響力

---

(1) 胡愈之及び徐伯昕について、拙稿2013参照。

を有したと推測される。

また、国共内戦時期の1940年代後半において、共産党は活字出版事業の強化に力を入れ、新華書店などの発行流通システムを作り始めた。中華人民共和国建国初期に、既存の国民党系列の出版社や民間私営出版社などを改造し、出版流通システムの再建に取り組んだ。その際、新華書店のような新規ネットワークの構築にも生活書店の経営ノウハウが参考にされたと言われている。したがって、出版メディアの人的要素、技術的要素、出版経営の知的要素などの様々な側面において、生活書店の影響は新中国成立後にも及んでいたと考えられる。このような影響が、具体的にどの程度、どこで、誰によって、どのように見られたかについては、近現代中国の出版ジャーナリズムの連続性を反映したものとして、今後さらなる検証を行うべきであろう。

本稿は、このような検証課題の実施における基礎的な作業の一端である。すなわち、生活書店から三聯書店への「変身」の過程の初期段階の状況を明らかにする試みである。具体的にはまず、生活書店・読書出版社・新知書店の三社間に合併以前どのような連携があったのかを整理したうえで、「重慶三聯分店」の成立及び経営状況を考察する。次に、1948年香港にて正式に設立された「香港三聯書店」の設立経緯や人員組織などを考察し、1950年代以降の「三聯書店」の状況を言及する。そして最後に、昨年（2013年）に新生を果たした「生活書店」をめぐる社会的反応などを考察する。なお、筆者が知る限り現段階においては「三聯書店档案」の所在は不明である。したがって、本稿では主に下記の史料集に依拠した。『生活・読書・新知三聯書店成立三十周年紀念集』（1978）、『生活・読書・新知留真集影』（1998）、『上海文化界：奮戦在“第二条戦線上”史料集』（1999）、『生活・読書・新知三聯書店文献史料集』（2004）である。

## I 生活書店・読書出版社・新知書店の合併前の連携

生活書店、読書出版社、新知書店（以下、「三社」）の間では、合併以前からすでに様々な連携が図られていた。このような連携は主に二社連携であったが、後の三社連携の基礎となった。以下、具体的に「根拠地」及び

「国統区」における「三社」の連携をみていきたい。

まず、根拠地における書店の開設である。1940年夏、生活書店は李文、読書出版社は劉大明、新知書店は王華、合わせて3人を派遣し、晋東南根拠地の左権県で華北書店を開設した。同年の冬、続いて柳湜（生活書店）・趙冬垠（読書出版社）・徐律（新知書店）の3人が派遣され、延安で華北書店が開設された。ほかに、袁信之（生活書店）・張漢卿（読書出版社）・王益（新知書店）の3人によって蘇北根拠地で立ち上げられた大衆書店もある。上記各根拠地で作られた書店は、「三社」がはじめて共同経営した書店である。「三聯」という看板こそ掲げられていないが、「隠れの三聯書店」と称してもよいものであろう。

次に、「三社」が共同出資して立ち上げた「文林出版社」である。1941年6月以降、ドイツのソ連侵攻に伴い、国民政府によるソ連関係情報の統制が徐々に緩和され始めた。当時の世界状況、とりわけソ連軍によるドイツ侵攻に対し抵抗する動きを中国国内に紹介するため、1942年初め頃、文林出版社が立ち上げられた。文林出版社は共産党南方局と「三社」が50%ずつ出資して作られたものである。当時の経営内容は、主にソ連の抗戦文化をテーマとする文芸作品の翻訳と出版だった。文林出版社の社長を任されたのは生活書店の方学武だった。

以上のような書店や出版社のほか、「立信會計図書用品社」・「兄弟圖書公司」・「聯營書店」なども作られた。このような様々な出版関連機構が立ち上げられた裏には、共産党による指導や支援があったと言われている。前述したように共産党南方局が直接出資したケースもあるが、共産党地下黨員による指導がもっとも多かったと考えられる<sup>(2)</sup>。とりわけ、当時共産党南方局の指導者（書記）だった周恩来による指導については、数多くの回顧録において記述が見られる。たとえば、徐雪寒は次のように述べている。

1940年夏、生活書店の徐伯昕、読書出版社の黄洛峰とともに八路軍弁事処で周恩来と話し合いをした。その話し合いで、周恩来から、延

(2) 生活書店、読書出版社、新知書店には早い段階から共産党の地下黨員がいたと思われる。  
田中仁（1990）の303頁、Stranahan（1998）の第五章、及び拙稿（2012）参照。

安や根拠地は我々の力を必要としているため、三社から人員を派遣し民間企業としての出版機構を立ち上げてほしいとの指示があった。(中略) 1941年冬、周恩来から特別な任務が命じられた。それは、新知書店から黨員幹部を数人選んで江西省・福建省など各地で「灰色書店」や文房具売店を作り、必要時の拠点として待機させることだった<sup>(3)</sup>。

ここで言及されている「灰色書店」とは、いわゆる表看板は一般の民間書店だが、共産党地下黨員によって経営されている出版社や書店を指し、主に「出版に関わる設備や人員の確保」及び「連絡通信拠点の設置」の目的から作られたものである。これは、当時の戦況によって刻々と変わる社会状況に常時対応する戦略の産物である。

## II 「重慶三聯分店」の設立及び経営状況

上記のような「三社」間の連携は数年間にわたり行われた。1945年8月の抗日戦争終結後、「重慶三聯分店」の設立によって「三社」における新たなステップが踏み出された。「重慶三聯分店」は1945年10月に設立された後1947年10月に業務停止に追い込まれたため、わずか2年あまりの存続だったが、正式に「三聯」という看板を掲げた最初の三聯書店であった。この節では、その設立の経緯及び経営状況を考察する。

1945年10月22日、店内内部向けの『為合組重慶三聯分店告同人書』が公布された。そのなかで合併の旨について次のように記されている。

抗戦が終結し、文化事業が新しい段階に入る。新しい状況下の任務を果たせるよう、我々の事業における新たな調整が始められ、新しい体制をもって新しい時代を迎える。力を合わせるため、生活・読書・新知の三社がさらに団結し合作する必要がある。全国的な範囲での合作も検討中だが、重慶にある三つの分店は直ちに聯合経営を決定した<sup>(4)</sup>。

---

(3) 『生活・読書・新知三聯書店文献史料集』13-14頁。

(4) 『生活・読書・新知三聯書店文献史料集』51頁。

表1 重慶三聯分店組織及び人員配置（1945年）

重慶三聯分店組織図		
管理処	經理（仲秋元）	
	副經理（劉遜夫）	
	営業部 （主任：劉遜夫〈兼任〉）	批発科（鄧昌明）
		進貨科（濮光達）
		棧務科（盧寄萍）
		郵購発行科（王天覚・曾熙）
		推广科（趙徳林〈暫定〉）
	総務部（主任：楊明）	庶務科（汪顕明）
		収発科（楊和〈兼任〉）
	会計部（主任：何理立）	財務科（李秀珠）
		出納科（楊和）
門市科	第一門市	劉起白・陳青聆・郭家祺・鍾毅・蘭宗祥
	第二門市	尤開元・欧陽洪・冉啓文・吉健生・石泉安
	第三門市	黄白寒・韋起応・蔣明・鄧滌非・王建畴

出所：『生活・読書・新知三聯書店文献史料集』52-53頁に基づき、筆者作成

このような全体的な目的が述べられた後、さらにその理由が3点挙げられている。すなわち、第一に、今後全国的な範囲において無数の重要な町に業務を展開していくこととなるため、重慶だけに限った業務は許されない。第二に、政治文化の中心の移転に伴い、重慶での文化食糧の需要減少が見込まれるため、重慶に三つの拠点が同時に存在する必要はない。第三に、もっとも重要なこととして、重慶での合作は将来三聯のさらなる業務展開の実験台となり、ほかの地域の模範（経営モデル）となる、というものである。合併の具体的作業をスムーズに進行させるため、「三社」の各重慶支店の管理処から「聯合技術小組委員会」が立ち上げられ、業務にあてられた。その後「聯合技術小組委員会」から『重慶生活・読書・新知三店関于合組三聯分店之決議』が出され、合併が行われた。以下、この『決議』から、重慶三聯分店の組織及び人員配置などを見る。

表1が示すとおり、重慶三聯分店は主に「営業」・「総務」・「会計」の三つの部署からなる。そして、実際の店舗（「門市」）は第一門市から第三ま

表2 重慶三聯分店が発行・販売した雑誌一覧

	出版地	雑誌名	出版元	編集者
1	重慶	『重慶雑誌界聯合三日刊』	各民主党派聯合	
2	重慶	『民主星期刊』(週刊)	民盟	陶行知・鄧初民
3	重慶	『民主生活』(週刊)	救国会	潘鈞儒・宋雲彬
4	重慶	『自由導報』(月刊)	民建	蘇東
5	重慶	『中華論壇』(半月刊)	農工党	章伯鈞
6	重慶	『再生』(半月刊)	民社党	張君勱
7	重慶	『民主教育』(月刊)		陶行知
8	重慶	『中原・希望・文哨・文芸雑誌聯合特刊』(半月刊)		郭沫若・胡風・邵荃麟・葉以群
9	重慶	『現代婦女』(月刊)		曹孟君
10	重慶	『職業婦女』(月刊)	職業婦女連合会	
11	重慶	『青年知識』(月刊)	青年知識社	
12	重慶	『科学与生活』(月刊)		蔣一葦
13	重慶	『萌芽』(月刊)		邵荃麟・何其芳
14	重慶	『抗戰文芸』(月刊)	文芸界抗敵協會	老舍
15	重慶	『人物雜誌』(月刊)		張知辛
16	重慶	『故事雜誌』(月刊)		蘇東
17	重慶	『中国學術』(季刊)	中国學術工作者協會	
18	上海	『民主』(週刊)	生活書店	鄭振鐸
19	昆明	『民主週刊』(週刊)	昆明民主同盟	
20	上海	『經濟週報』(週刊)		許涤新
21	成都	『希望』(月刊)		胡風
22	成都	『呼吸』(月刊)		方然

出所：『生活・読書・新知三聯書店文献史料集』592-593頁に基づき、筆者作成

で三つあり、それぞれ元生活書店の店舗、元新知書店の店舗、元読書出版社の店舗であった。「重慶三聯分店」の構成員は合計32人で、うち元生活書店からは12人、元読書出版社からは11人、元新知書店からは9人であった。

『告同人書』が公布された後は、「三社」の従業員の支持を得て、合併作業は極めて順調に進んだ。1945年11月2日、まず第二門市が「三聯」の看板を掲げて営業を開始した。11月20日、三つの門市はすべて営業を開

始し、重慶の各紙に3日間続けて「啓事公告」を掲載した。これをもって、最初の「三聯書店」が重慶で誕生したことになる。

重慶三聯分店は設立後、西南地域の図書発行拠点となった。当時、多くの雑誌が重慶三聯分店に発行・販売を委託した。

表2の22種類のジャーナルのうち、三日刊は1種類、週刊は6種類、半月刊は3種類、月刊は11種類、季刊は1種類である。月刊が半数を占めていることからわかるように、当時のジャーナルの主流は月刊だったと言える。しかし、このような発行頻度が異なるジャーナルを多数かつ同時に発行・販売する業務は、重慶三聯分店にとって容易なものではなかった。それぞれの雑誌の発行部数は多い場合は5,000部で、少ない場合は数百部であったが、発行・販売先が多岐にわたっていた（重慶の地元地域・重慶以外の地域・書店関連の同業者・個人の購読者など）ため、重慶三聯分店の業務は相当煩雑なものであった。従業員は週末もほとんど休むことなく、業務にあたった<sup>(5)</sup>。

### III 「香港三聯書店」の設立及びその後

国共内戦末期、国民党政権による迫害が次第に深刻化するにつれ、「三聯総管理处」は香港へ移転し、新たに「三聯書店」を立ち上げる準備に着手した。1948年10月18日、「三社」の合同代表大会が開かれ、「三聯書店臨時管理委員会」が発足した。その正式委員15人と候補委員7人は表3のように選出されている。

1948年10月26日、「三社」の合同同人大会が開かれ、新しい三聯総管理处の人事案及び香港分店の責任者などが公布された。翌日10月27日には、香港の各紙に告知が掲載され、三聯書店の正式設立が宣言された。香港の三聯書店は当初「生活書店・読書出版社・新知書店香港聯合発行所」という名称で出発したが、のちに「三聯書店香港分店」へと改名した。（写真1参照）

香港三聯書店が設立された後は、東北地域や華北地域においても次々に

(5) 『生活・読書・新知三聯書店文献史料集』595頁。



表3 香港三聯書店臨時管理委員會委員出身別一覽 (1948年)

委員 (15人)	生活書店	徐伯昕・胡繩・邵公文・薛迪暢・畢青・程浩飛
	読書出版社	黄洛峰・万国鈞・吳毅潮・歐陽建
	新知書店	瀋静芷・張朝同・邵荃麟・朱曉光・唐澤霖
候補委員 (7人)	生活書店	許覺民・陳正為・張明西・仲秋元
	読書出版社	倪子明・範用
	新知書店	劉建華
その他	主席：黄洛峰	

出所：『生活・読書・新知三聯書店文献史料集』159頁に基づき、筆者作成



写真1

出所：『生活・読書・新知三聯書店成立三十周年紀念集』

三聯書店が設立されたが、当時の三聯総管理処の規定に従い、「光華書店」や「新中国書局」などの名称が付けられた。だが、1949年1月以降は、東北地域での出店が増えるにつれ、遠隔の香港の総管理処による連絡や指導が徐々に困難となった。そこで、東北地域での業務展開に応じるため、新たに瀋陽にて「三聯書店東北管理処」が発足した。1949年8月15日、「三社」は連名で各紙に「為統一店名告全国読者和同業書」という広告を掲載



し、「兄弟図書公司」・「光華書店」・「新中国書局」などのこれまでの名称をすべて「生活・読書・新知三聯書店」に統一することを発表した。1949年10月に中華人民共和国が成立すると、南部地域において「長沙三聯書店」（1949年10月）、「広州三聯書店」（1949年11月）、「西安三聯書店」（1949年11月）、「重慶三聯書店」（1950年1月）が次々と設立された。1949年12月、三聯書店総管理処は香港から北京へ移転となった。1950年4月24日には北京で第1回全国分店長会議が開かれ、今後の経営方針などの重要事項が定められた。しかし、1950年以降、中央政府による全国の出版機構の調整が始まり、三聯書店も解体され、人民出版社などに統合された。そして、1951年1月30日の『店務通訊』第12号において、三聯書店は正式に業務終了したと告知された。

#### IV そして再び生活書店へ

2013年7月、「生活書店重張」のニュースが中国各地のメディア（写真2参照）によって報じられた<sup>(6)</sup>。1932年7月に上海で始まった生活書店は、1948年の合併によって消失したが、65年後に再生された。鄒韜奮長男の鄒家華氏、元生活書店従業員の仲秋元氏、作家王蒙氏らは誌上で座談会を開き、生活書店の歴史を辿り、今後の期待などについて意見を交わした<sup>(7)</sup>。そのなかで、仲秋元は新生した生活書店に対して、旧生活書店の基本精神である「読者重視」の精神が引き継がれることをおおいに期待していると述べた。

#### 結びに：三聯書店の変遷からみる出版文化拠点の移動

以上、日中戦争期から内戦期、さらに中華人民共和国成立以降の1950年代初頭にかけての三聯書店の変遷を考察した。これは近現代中国の一つ

---

(6) たとえば、「三聯重張老字号“生活書店”」『京華時報』（2013年7月2日）、「生活書店81歳生日“重生”」『北京日報』（2013年7月2日）、「“老字号”生活書店恢復設立」『北京晨報』（2013年7月2日）、「生活書店重張喚醒名家記憶」『北京晚報』（2013年7月3日）など。

(7) 「恢復設立生活書店筆談」『讀書』2013年8月。



写真 2

出所：『北京晚报』2013年7月3日

の出版機構の歴史に過ぎないが、ここから当時の出版文化の中心地（拠点）の移動ルートを見ることができる。生活書店・読書出版社・新知書店の三社はいずれも上海で始まった出版機構だが、日中戦争による各勢力の変化によって、上海から武漢へ、さらに奥地の重慶へと移転しながら、その経営を継続させた。国共内戦の終結が近づいた時には当時イギリスの植民地だった香港へ移り、さらに内戦末期にはいち早く上海へ戻れるよう動いていた。また、共産党政権が北京で樹立してからは、経営の心臓部にあたる「総管理処」を香港から北京へ移転させ、その後首都北京を拠点とした。このような一連の移転は三聯書店という一つの出版機構のみに見られる現象ではない。当時、ほかの多くの言論出版機構もほぼ同様のルートを通じて生き延びていたと言える。上海～武漢～重慶～香港～北京という動線は当時の主な文化拠点を繋ぐ一本の糸となり、戦時下の文化／芸術活動が帯びる「移動性」をもっとも顕著に反映するものであろう。

付記：本稿は、科学研究費助成事業・基盤研究(B)『戦時下中国の移動するメディア・プロパガンダー』研究分担金の交付を受けて行った研究成果の一部である。

## 参考文献一覧

〈日本語〉

大山茂「中国現代史の貴重な側面—鄒韜奮関係著作の重版に寄せて」『アジア経済旬報』1078（1978）：1-3

——「鄒韜奮記念館にみる出版事業家の生涯」『大安社史』（汲古書院、1998）：87-92

金冲及主編『周恩来伝1898-1949 中』狭間直樹監訳（阿吽社、1992）

田中仁「国民政府時期、転換期の上海における中国共産党の組織と活動」『大阪外国語大学論集』1（1990）：293-318

楊韜「戦時中国における鄒韜奮の政治活動」『言語文化論集』34.1（2012）：153-166

——「生活書店の人々：黄炎培・杜重遠・胡愈之・徐伯昕を中心に」『言語文化論集』35.1（2013）：219-232

〈中国語〉

金炳華主編『上海文化界：奮戦在“第二条戦線上”史料集』（上海人民出版社、1999）

寧成春・汪家明編『生活・読書・新知三聯書店書衣500幀：1931～2008』（北京三聯書店、2008）

三聯書店史料集編委会編『生活・読書・新知三聯書店文献史料集』（北京三聯書店、2004）

『生活書店史稿』編集委員会『生活書店史稿』（三聯出版社、2007）

生活・読書・新知三聯書店北京聯誼会編『生活・読書・新知留真集影』（北京三聯書店、1998、非売品）

生活・読書・新知三聯書店香港分店編『生活・読書・新知三聯書店成立三十周年紀念集』（香港三聯書店、1978、非売品）

仲秋元「寄語重生的生活書店」『読書』2013年第8期

〈英語〉

Stranahan, Patricia. *Underground: The Shanghai Communist Party and the Politics of Survival, 1927–1937*. Lanham: Rowman & Littlefield Publishers, 1998.

Ting, Lee-hsia Hsu. *Government Control of the Press in Modern China, 1900–1949*. Cambridge, Mass.: East Asian Research Center, Harvard University, 1974.